

校長室より

二松学舎大学附属高等学校
校長 鶴飼敦之

「二松から飛翔へ」～一期一会～

時を刻み続けた 4半世紀
～生徒たちを見守ってきた卒業記念品～

校舎玄関横に設置されている時計に、現在、固定用の紐が巻き付けられていることに気付いた人もいるかもしれません。実は一か月ほど前から、時計がわずかに傾いていることが確認されていました。本校前の道路は靖国神社方面から緩やかな下り坂で玄関前は最も低い地となっており、長年の風雨や地盤の変化などが影響したものと考えられています。先日の台風接近に際しては、安全面を考慮し、万が一にも倒壊することのないよう応急的な固定措置を行いました。

この時計は、今から24年前の52期生が卒業記念品として学校へ寄贈してくださったものです。それ以来、4半世紀にわたり本校のシンボルの一つとして、生徒たちの登下校を静かに見守り続けてきました。朝、登校時間を確認しながら足早に玄関へ向かうなど何気ない学校生活の中で、本校の風景の一部となっていました。

残念ながら、生徒や通行人の安全を最優先に考え、このたび撤去する方向で検討を進めています。長年にわたり時を刻み続けてくれた時計には感謝の気持ちでいっぱいです。そして何より、この時計を贈ってくださった52期生の先輩方の学校への思いは、これからも本校の歴史の中に受け継がれていくことでしょう。

受け継がれる松友の絆
～卒業後も続く学び舎とのつながり～

6月6日（土）、今年も本校同窓会「松友会」が開催されました。毎年、本校卒業生でもある教育実習生の実習最終日に合わせて実施されており、卒業生と母校を結ぶ大切な機会となっています。

当日は松友会会長から挨拶があり、本校の同窓会が長年にわたり多くの卒業生によって支えられ、受け継がれてきた伝統ある組織であることが紹介されました。そして、その歴史とつながりを誇りに思っているとのメッセージが送られました。また、教育実習生に向けては、「資格や専門性は社会に出てから自分を支える大きな力になる」との助言がありました。さらに、「卒業しても遠慮せず学校や先生方を頼り、いつでも母校に足を運んでほしい」という温かい言葉が続きました。

その後は大学食堂に会場を移し懇親会が催され、今年はコロナ禍以降中断していた75期生のホームカミングデイもあわせて開催され、多くの卒業生が久しぶりに母校へ集いました。卒業しても変わらず帰ってこられる場所があることは、本校の大きな財産の一つです。これからも世代を超えた絆が受け継がれていくことを願っています。

昼休みに響く音楽
～学校を元気にするギター一部の発表～

「自分たちの好きなことを通して学校を盛り上げたい。」そんな思いを大切に活動を続けているギター一部が、今年も昼休みを利用した発表会を開催してくれました。

先週の三日間、校内には軽快なリズムや美しいメロディーが響き渡り、多くの生徒や教職員が足を止めて演奏に耳を傾けていました。会場には自然と拍手や歓声が生まれ、昼休みのひとときが普段とは少し違う特別な時間へと変わっていました。

演奏する側にとっては、人前で演奏する緊張感や達成感を味わう貴重な機会です。一方で聴く側にとっても、音楽を通じて気持ちをリフレッシュし、午後の授業へ向かう元気をもらう時間となったのではないのでしょうか。学校生活を豊かにするのは授業や行事だけではなく、生徒一人ひとりの主体的な活動が学校全体の活気を生み出しているといえましょう。

レッシュし、午後の授業へ向かう元気をもらう時間となったのではないのでしょうか。学校生活を豊かにするのは授業や行事だけではなく、生徒一人ひとりの主体的な活動が学校全体の活気を生み出しているといえましょう。

関東地方 梅雨入り

～雨の日が続きます 足元注意～

関東地方の梅雨入りが宣言されました。

今日も朝から小雨が降り、生徒たちが登校する時刻は少し雨脚も強くなっていました。玄関前で生徒諸君を迎え挨拶するのも傘を差しながらで少し鬱陶しく感じます。

そんな中、「おはようカウンター」が“731”を記録しました。全校生徒数803名に対して、実に91%。傘越しですが、多くの皆さんと挨拶が交わせました。

